
流星のロックマン トライブα

E X

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星のロックマン トライブα

【Nコード】

N1937D

【作者名】

EX

【あらすじ】

アンドロメダとの戦いから数カ月後。主人公星河スバルは、ルナ、ゴン太、キザマロとともに、博物館を訪れる。ここから、ロックマンの新たな戦いが始まる……。

第1話『大剣オーバーツ』（前書き）

この小説は、台詞系です。

（キャラの台詞＋効果音です。）

第1話『大剣オーバーツ』

流星のロックマン トライブα

第1話『大剣オーバーツ』

アンドロメダとの戦いから数ヶ月。

主人公 星河 スバルは、ルナ、ゴン太、キザマロとともにある博物館を

訪れていた……

スバル 「大きな博物館だね！」

ルナ 「さあ、古代の文明展に行くわよー!!」

ザワザワ……

スバル 「うわぁ、コレが古代にあったんだね。」

キザマロ 「コレは古代のスターキャリアですね。」

ゴン太 「昔からあったのか!？」

スバル 「どうかな?」

ロツク 「ムー大陸?」

スバル 「ムー大陸?」

キザマロ 「そのムー大陸にオーパーツというものがあつたとパンフレットに

書いてありますね。」

ルナ 「キザマロ、そのオーパーツはどこにあるのよ?」

キザマロ「うん」

ゴン太 「あっちじゃねーか?」

スバル 「ウォーロック・・・」

ロック 「うん?」

スバル 「絶対こつちだよな。」

ロック 「看板が言ってるもんな。」

スバル 「看板じゃないよ、エアディスプレイだよ・・・。」

ロック 「ふん。」

スバル (わかって・・・ないよね・・・。)

ルナ 「あれ？星河くんは？」

・・・アレ・・・？

スバル 「こ、これがオーパーツ・・・。」

「スバル——！！」

スバル 「あつ、みんな。」

ゴン太 「勝手に行きやがって！迷子になったかと思ったぜ！！」

キザマロ 「たんだく行動とは・・・。」

スバル 「いや・・・そうじゃなくて・・・」

ルナ 「と・に・か・く！これがオーパーツねえ」

キザマロ 「すごいです！！」

ゴン太 「すげえー！！」

ルナ （ホント男の子ってこいつの好きよね・・・）

スバル 「ベルセルクだって。」

ロック 「スバル、ビジライザーをかけてみるよ。」

スバル 「うん。」

ガチャッ・・・

スバル 「な、何コレ!？」

ロツク 「かなり大きな電波があるな・・・。」

スバル 「こんな電波初めてだよ・・・。」

ゴン太 「どうしたスバル? ウオオオオ!？」

キザマロ 「スターキャリアーで見ましたがすごい電波です!」

ゴゴゴゴゴオオオオ・・・

スバル 「なんだ?」

ガシヤアアン！！

イエティ「ハハハハア！！」

スバル「FM星人！？」

ロック「電波変換だ！」

「電波変換、星河 スバル オン・エア！！」

Wロック「ロックバスター！」

パシュン！ パシュン！！

イエティ「誰だ・・・？」

Wロック「僕はロックマンお前は誰だ！」

イエティ「俺はイエティ・ブリザード。邪魔をするつもりか・・・？」

Wロック「イエティ・ブリザード、何が目的なんだ！」

イエティ「決まっているだろ・・・」

「オーパーツは渡さん！！」

ドゴオオオオ・・・

イエティ「ファントムか・・・邪魔なやつが増えた・・・」

ファントム「邪魔なのはお前の方だ。」

イエティ「オーパーツは・・・」

ファントム「俺のものだぁ!!」

バシィィィ!!

ワロツク「・・・あつ!」

ロツク「スバル、追え!」

ファントム「ファントムクロー!!」

イエティ「ナダレダイコ!!」

ズゴオオオオオ!

ポロ………

イエティ「オ、オーバーツが……!!」

ファントム「俺が……!!」

イエティ「やるかあ!!」

ロック「スバル、あいつらより先に……!」

Wロック「わかってる!!」

「ウオオオオオ！」

イエティ「ん？」

ファントム「何だ？」

W ロック「お前たちには渡さない・・・！！！」

ロック「クソオオオ！」

W ロック「後少し・・・」

ロツク 「俺に任せろ！」

ガブウ！！

イエティ「っち……。」

ファントム「面倒なことを……。」

パシィン……。。

W ロック「やったねウォーロック！」

ロック「……………」

W ロック「どうしたのさ、ウォーロック？」

ロック「……つちまつた……」

W ロック「なんて？聞こえなかった。」

ロック「だから……飲み込んだ……」

W ロック「……………」

「エエエエエ！？」

W ロック「どうしよう……」

ロック「知らね……」

流星のロックマン トライブα 第1話終わり

第2話に続く・・・。

第2話『3つのオーバーツ』

ロツク 「おい…」

スバル 「グウ……………」

ロツク 「おい、スバル」

スバル 「グウ……………」
「！」

ロツク 「起きろスバル！」

スバル 「うわぁー!!」

ガバツ！

スバル 「なんだよオーロツク…もう少し寝かせてよ…」

ロツク 「アマケンにでも行くんじゃないのか？」

スバル 「あっ、そうだった!」

ロック 「まったく…」

スバル 「かあさん、行ってきまーす!」

ブーン……

スバル 「ウォーロック、調子はどう?大丈夫?」

ロック 「ああ、今のところはな。」

スバル 「そう…よかった。」

ロック 「へっ、もう着くぜ」

スバル 「いやーいつ見てもアマケンはすごいやあ」。

天地さん 「ははは、そうかな。」

スバル 「うん。すごいよ！ ねえ、ウォーロック。」

ロック 「あ？そーか？」

スバル 「ウォ、ウォーロック……」

天地さん 「あ、スバル君、今日は何の用だい？」

スバル 「あつ、じ、実は……」

天地さん 「なるほど。ウォーロックが、オーバーツ
ベルセルクを飲み込んでしまったのか……」

スバル 「い、色んな意味で危ないですよね……」

天地さん 「ま、まあ色んな意味ではね……」

ロック (色んな意味でって、どんな意味だよ……)

スバル 「どうにかなりませんか？ 展示品返さないと……」

ロック (そっちかよ!?)

天地さん 「あつ、ちょうどいいオーパーツについて調べている科学者がいるんだ。」

スバル 「ほんとですか!？」

天地さん 「今呼びに行ってくる、少し待っていてくれ」

スバル 「わかりました。」

天地さん 「お待たせスバル君。こちらがその…」

オリヒメ 「オリヒメです。」

スバル 「星河 スバルです。」

天地さん 「ドクターオリヒメ、こっちがオーパーツベルセルクを飲み込んでしまったウォーロックなのですが…」

ロック 「う、うぐ…」

スバル 「大丈夫、ウォーロック!？」

ロック 「ああ、大丈夫だ」。

オリヒメ 「うーん、取り出す事は、今は難しいでしょう。」

スバル 「そんな!？」

オリヒメ 「今この世界は、地球外生命体『UMA』がいると言われてます。」

スバル 「『UMA』?」

オリヒメ 「かつてこの地上には強い力を持った3つの種族『トライブ』があり、『シノビ』『ダイナソー』そして『ベルセルク』

今は絶滅し遺跡などからしか存在を知ることができませんが、
3つのトライブの力はオーパーツにあると思われます。」

スバル 「そんなもの悪い人に取られたら大変だよ！」

オリヒメ 「そうです。

だからあなたがのこりのオーパーツを探し出してはくれませんか？
スバル君！」

スバル 「わかりました。やってみます！」

流星のロックマン トライブα 第2話おわり

第3話に続く……。

第3話『孤高の戦士ブライ』

オリヒメ 「そうです。」

スバル 「わかりました。やってみます。」

「その必要はない!!」

ドゴオオオオオ!

スバル 「なんだ!？」

オリヒメ 「あなたは、ブライ……」

スバル 「ブライ…？」

ブライ 「オーパーツは俺が探す。お前のベルセルクの剣を渡せ。」

スバル 「何！？」

ロック 「スバル、電波変換だ！！」

スバル 「電波変換 星河 スバルオン・エア！！」

バシユウウウー

W 「そこまでだ。お前にオーパーツを渡すわけには行かない。」

ブライ 「後悔するなよ……」

グイーン……

W 「剣が出た！？」

ロック 「あっちがそうならこっちも剣で行くぜ！」

W 「バトルカード『ロングソード』……！」

ガキーン

シュパッ

ギンッ

W 「はあ、はあ、はあ……」

ブライ 「もう終わりか……？」

W 「まだ……だ……。」

ゴゴオオオ………

ブライ 「くっ、何だ……この力は……まあいい……お前などいつでも倒せる……」

シュウウウ……

W 「逃げた……か……。」

パシュウ……

ロック 「スバル…。」

スバル 「なに？ウォーロック？」

ロック 「いや、なんでもねーや。」

スバル 「ふーん。変なの。」

オリヒメ（あの力は一体…）

流星のロックマン トライプα 第3話おわり

第4話に続く・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1937d/>

流星のロックマン トライブα

2010年10月11日19時40分発行